

2014年3月期 第2四半期 決算説明資料



2013年10月31日

ヤマトホールディングス株式会社

免責事項：この内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。なお、提供情報の内容については万全を期しておりますが、完全性、正確性を保証するものではありません。いかなる情報も、不的確な記載や誤植等を含む可能性があります。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご承知ください。

ヤマトホールディングス(株) 取締役社長の木川でございます。

それでは、資料に沿って、決算のご説明をさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

1. 決算概要

2014年3月期第2四半期 決算のポイント

- ・営業収益、営業利益のトレンドに大きな変化はなく、前年同期比で増収増益の着地。
- ・宅急便は第1四半期から引き続き、大口通販顧客の出荷個数が大幅に増加。リテール市場も堅調に推移。
- ・ノンデリバリー事業については、BIZ-ロジ事業が振るわなかったものの、全体として計画線上。

デリバリー事業の動向

- 2014年3月期第2四半期の宅急便取扱個数は、第1四半期から引き続き、通販関連の荷物が大幅に増加。リテール市場においても堅調に推移している。単価の下落要因としては、個数構成比の変化によるもののみと分析。
- 2014年3月期第2四半期のクロネコメール便取扱冊数は、荷受厳格化や競争環境の激化が影響したものの、前年並みの冊数を確保。単価は安定的に推移。

各ノンデリバリー事業の動向

- BIZ-ロジ事業 前年同期比で減益となったものの、計画に織り込み済みであり、想定通りの着地。
- ホームコンビニエンス事業 家財宅急便や住宅設備機器の配送サービスが好調に推移し、14億円の増収。6億円の営業赤字だったものの、前年に対して赤字幅は縮小傾向。
- e-ビジネス事業 電子マネー関連サービスや通販関連サービスが好調に推移し、前年同期比で増収増益。
- フィナンシャル事業 宅急便コレクトが堅調に推移し、前年同期比で増収増益。
- オートワークス事業 車両整備台数が着実に増加し、前年同期比で増収増益。

2014年3月期 第2四半期決算のサマリーでございます。

詳細の業績数値は、スライド2にございますので、合わせてご覧頂ければと思います。

- ① 2014年3月期 第2四半期実績につきましては、全てのセグメントで増収となり、対前年385億円の増収、53億円の増益となりました。
- ② 第2四半期予想対比(第1四半期時点)におきましても、78億円の増収に対して、8億円の増益となり、予想を上回る着地となりました。
- ③ デリバリー事業における、通販関連荷物の増加により、主力の宅急便が好調な伸びを示していることから、大幅な増収となりました。
- ④ ノンデリバリー事業の直近の動向についても、簡単に触れさせていただきます。

(1) BIZ-ロジ事業

期首からの見立てから大きくずれることなく推移しており、特筆すべきトレンドの変化はございません。サブセグメントの貿易物流は、第2四半期累計で対前年10億円の増収となっておりますが、これは、為替の影響によるものであり、航空フォワーディング(輸出)の荷動きは、依然として厳しい状況でした。

(2) ホームコンビニエンス事業

家財宅急便が堅調に推移したことから、利益の赤字額は縮小し、前年に対して改善傾向にあります。

(3) e-ビジネス事業・フィナンシャル事業・オートワークス事業

収益、利益ともに安定的に伸びており、想定通りの着地となりました。

2. 2014年3月期第2四半期決算の業績



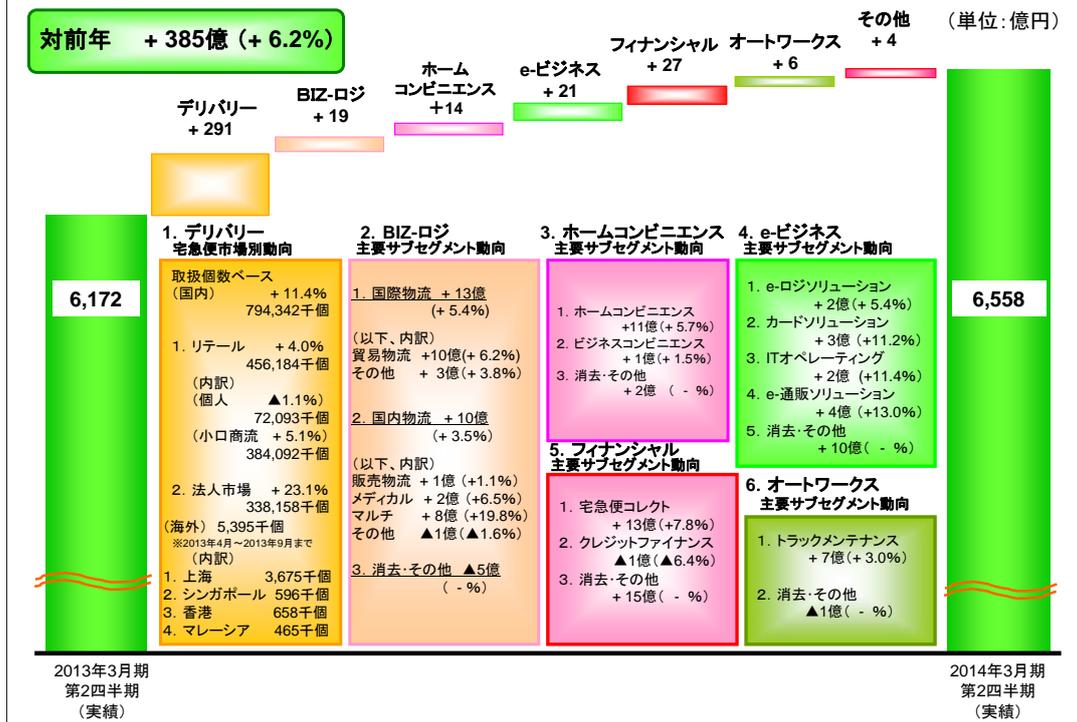
(単位:億円)

| | 2014年3月期 第2四半期 実績 | 2013年3月期 第2四半期 実績 | 2014年3月期 第2四半期予想 (1Q時予想) | 前年比較 | | 予想比較 | |
|---------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|------|--------|------|--------|
| | | | | 増減 | 伸率 (%) | 増減 | 伸率 (%) |
| 営業収益 | | | | | | | |
| デリバリー事業 | 5,245 | 4,953 | - | 291 | 5.9 | - | - |
| ノンデリバリー事業 | 1,312 | 1,219 | - | 93 | 7.7 | - | - |
| 合計 | 6,558 | 6,172 | 6,480 | 385 | 6.2 | 78 | 1.2 |
| 営業利益 | 233 | 180 | 225 | 53 | 29.5 | 8 | 3.8 |
| (利益率) | 3.6% | 2.9% | 3.5% | - | - | - | - |
| 経常利益 | 239 | 189 | 230 | 49 | 26.3 | 9 | 4.0 |
| (利益率) | 3.6% | 3.1% | 3.5% | - | - | - | - |
| 四半期純利益 | 123 | 80 | 115 | 42 | 53.1 | 8 | 7.6 |
| (利益率) | 1.9% | 1.3% | 1.8% | - | - | - | - |

業績数値でございます。

- ① 営業収益、営業利益はご説明差し上げた通りです。
四半期純利益は、対前年42億円の増加となりました。
- ② 特別利益、特別損失につきましては、特筆すべきものはございません。

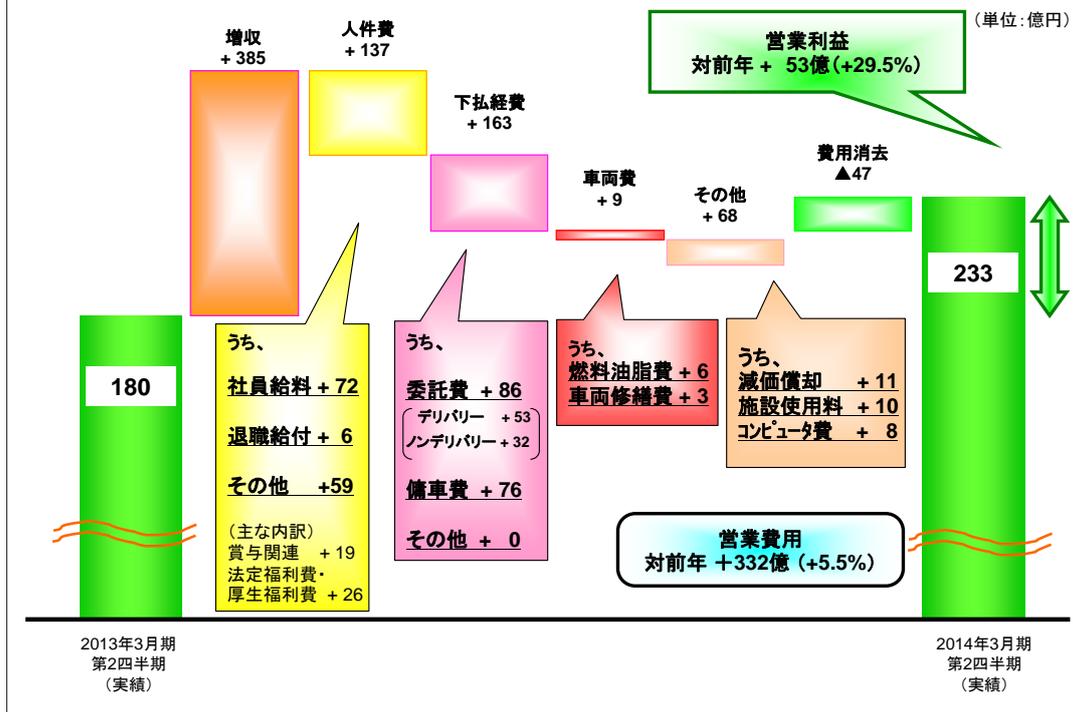
3. 連結営業収益増減分析(対前年)



連結営業収益の増減分析でございます。

- ① スライド1でご説明させていただいた内容と重複いたしますので、割愛させていただきますが、デリバリー事業を中心に、全てのセグメントで増収となっております。

4. 連結営業費用増減分析(対前年)



連結営業費用の増減分析でございます。

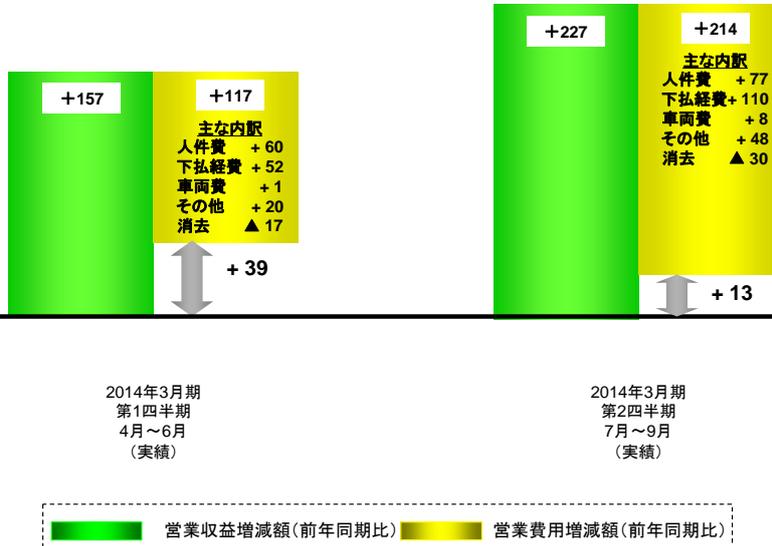
- ① 第2四半期(累計)においては、連結営業収益が対前年+6.2%の増収に対し、連結営業費用につきましては、対前年+5.5%となりました。
- ② 第2四半期(累計)の営業費用の増減明細については、記載の通りとなっております。
- ③ スライド5の四半期別連結営業利益の動向とあわせてご覧頂くと分かりやすいかもしれませんが、足元の宅急便数量の伸びを鑑みると、特に第2四半期(単体)の利益の歩留まりに関して、違和感を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。
- ④ これは、7月～9月の第2四半期では、通常の繁忙期に加え、拡大するEコマース市場を背景とした宅急便数量の増加を踏まえ、品質・サービスレベルを落とさないよう、人件費ならびに委託費を中心に集配に関わるコストをかけ、体制強化を行ったことによるものです。
- ⑤ 中長期的な宅急便の成長力に関する当社の見方は、引き続きEコマース市場関連が大きく牽引するものと思いますが、Eコマース市場以外のお客様からの発送も含め、継続的に成長が見込めると見ております。
- ⑥ 一方、足元では、有効求人倍率の緩やかな上昇が示している通り、雇用環境の改善により、局地的に求人関連コストの増加も予測できるため、品質面、雇用面も鑑み、現段階での集配体制強化を優先させました。
- ⑦ その他、燃料油脂費、その他経費では、大きな変動はございません。

5. 四半期別連結営業利益動向(対前年)



2014年3月期第2四半期(単計)は、宅急便数量の増加を背景としたコストの増加が発生したものの、収入の大幅確保により、前年同期比13億円の増益。

(単位:億円)



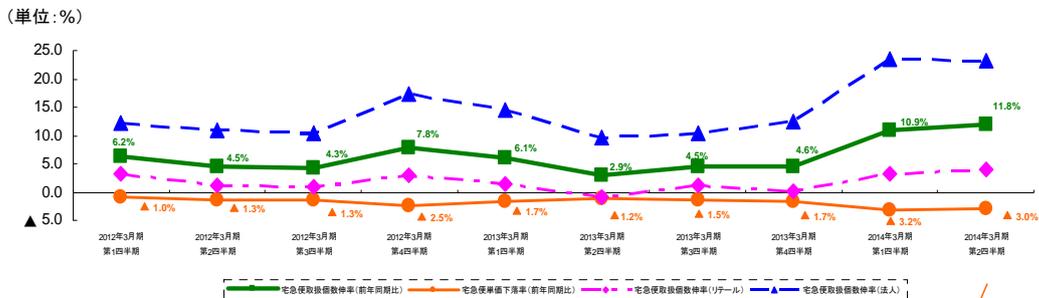
四半期別連結営業利益の動向でございます。

① スライド4でご説明させていただいた内容と重複いたしますので、割愛させていただきます。

6. 四半期別宅急便取扱個数・単価動向の推移(対前年)



宅急便取扱個数は、第1四半期から引き続き、通販関連の荷物が大幅に増加。
 リテール市場においても堅調に推移している。
 単価の下落要因としては、個数構成比の変化によるもののみと分析。

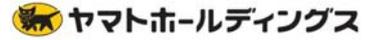


2014年3月期 第2四半期単計 市場別単価動向(前年同期比)
 リテール: ▲ 0.5%
 法人 : ▲ 2.9% (うち、主要大口顧客除く ▲ 0.3%)

四半期別宅急便取扱個数・単価動向の推移でございます。

- ① 宅配市場の競争環境は、引続き安定しております。
 宅急便取扱数量は、E-コマース市場の拡大に伴い、法人市場を中心に堅調に伸ばしており、第1四半期(単体)、第2四半期(単体)ともに、対前年+10%を上回る伸びとなりました。
- ② 宅急便単価につきましても、引続き安定しております。
 ボリュームディスカウントがきている法人市場の荷物が大幅に増加したことにより、第1四半期(単体)、第2四半期(単体)ともに、前年に対して△3.0%程度の下落となっております。
- ③ 第2四半期(単体)の単価下落率を市場別に分解いたしますと、資料記載の通り、リテール市場は△0.5%、法人市場は△2.9%となっております。
- ④ リテール市場は、小口商流市場と個人市場(C2C)に分類できますが、小口商流市場の単価のみを切り出すと、前年並みの着地となりました。

7. 四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移(対前年)



クロネコメール便取扱冊数は、荷受厳格化や競争環境の激化の影響があったものの、前年並みの冊数を確保。単価は安定的に推移。

2014年3月期 第2四半期単計 市場別発送冊数(前年同期比)
 宅急便センター発: ▲3.4%
 物流支店発: +0.1%

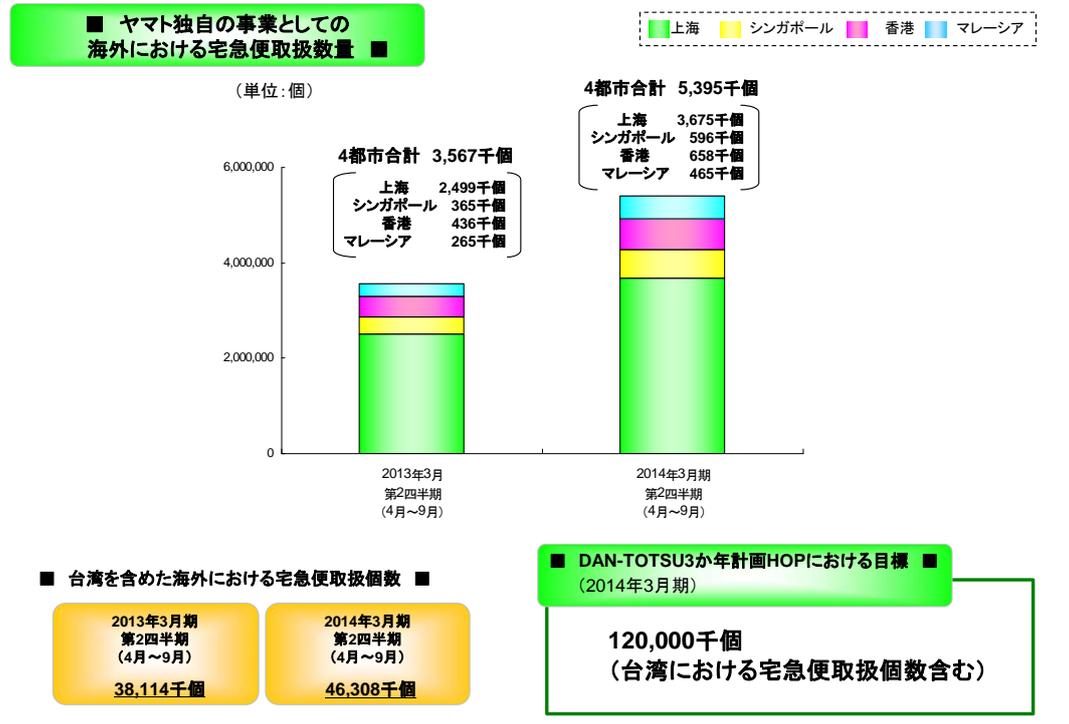
(単位:%)



四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移でございます。

- ① クロネコメール便取扱冊数全体は、第1四半期(単体)、第2四半期(単体)ともに、大きな変動はなく第2四半期(累計)で対前年△0.5%となりました。
- ② 第2四半期(単体)では、資料記載の通り、△1.1%となり、その内、ダイレクトメールを中心とした法人市場は+0.1%、平均単価よりも高い宅急便センター発送の小口商流市場は、△3.4%となりました。
- ③ 第1四半期(単体)、第2四半期(単体)のクロネコメール便単価につきましても、安定的に推移しており、前年並みの61円となりました。

8. 海外宅急便事業の進捗状況



海外宅急便事業の進捗状況でございます。

- ① 取扱個数につきましては、記載の通り、着実に伸びております。
台湾を含めた、数値につきましても合わせてご報告させていただきます。

9. 「バリュー・ネットワーキング」構想の進捗状況

 ヤマトホールディングス



「バリュー・ネットワーキング」構想の進捗状況についてです。

- ① 8月11日に厚木ゲートウェイを、9月20日には、羽田クロノゲートを竣工しております。
- ② 沖縄国際物流ハブに関しても、既にスタートさせている、アジア向け国際宅急便の最短翌日配達に加え、今般、10月28日より国際クール宅急便をスタートさせていることをあわせてご報告させていただきます。

10. 2014年3月期業績予想(1)

(単位:億円)

| | 2014年3月期 予想 | 2013年3月期 実績 | 前年比較 | |
|-------|----------------|----------------|------|-------|
| | | | 増減 | 伸率(%) |
| 営業収益 | 13,450 | 12,823 | 626 | 4.9 |
| 営業利益 | 710 | 662 | 47 | 7.2 |
| (利益率) | 5.3% | 5.2% | - | - |
| 経常利益 | 720 | 679 | 40 | 5.9 |
| (利益率) | 5.4% | 5.3% | - | - |
| 当期純利益 | 405 | 351 | 53 | 15.2 |
| (利益率) | 3.0% | 2.7% | - | - |

2014年3月期通期の業績予想でございます。

- ① 営業収益以下、第1四半期に発表させていただいた数値からは変更しておりません。
- ② セグメント毎の業績予想ならびに費用前提につきましては、後ほど常務の芝崎よりご説明申し上げます。

私からの説明は以上でございます。

費用分析 業績予想の前提

財務・IR担当の芝崎でございます。

本日は、決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。

それでは、資料に沿って、ご説明をさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

11.連結営業費用の増減分析(対前年)



(単位:百万円)

| | 2014年3月期 第2四半期 | 2013年3月期 第2四半期 | 前年比較 | |
|--------|-------------------|-------------------|---------|-------|
| | 実績 | 実績 | 増減 | 伸率(%) |
| 営業収益 | 655,818 | 617,298 | 38,520 | 6.2 |
| 営業費用 | 632,468 | 599,263 | 33,204 | 5.5 |
| 人件費 | 346,380 | 332,647 | 13,732 | 4.1 |
| 社員給料 | 236,316 | 229,101 | 7,214 | 3.1 |
| 退職給付費用 | 7,349 | 6,740 | 609 | 9.0 |
| その他 | 102,714 | 96,805 | 5,909 | 6.1 |
| 下払経費 | 250,067 | 233,704 | 16,363 | 7.0 |
| 委託費 | 99,543 | 90,899 | 8,643 | 9.5 |
| 備車費 | 79,183 | 71,552 | 7,631 | 10.7 |
| その他 | 71,340 | 71,252 | 88 | 0.1 |
| 車両費 | 23,060 | 22,080 | 979 | 4.4 |
| 燃料油脂費 | 13,827 | 13,173 | 654 | 5.0 |
| その他経費 | 131,502 | 124,608 | 6,893 | 5.5 |
| 減価償却費 | 18,486 | 17,309 | 1,177 | 6.8 |
| 内部消去 | ▲ 118,541 | ▲ 113,777 | ▲ 4,764 | 4.2 |

2014年3月期 第2四半期の連結営業費用明細でございます。

スライド12に、デリバリー事業の営業費用明細がございますので、合わせてご覧いただければと思います。

① 第1四半期と同様、連結営業費用におきまして、会計基準の変更や計上科目の変更等による影響はございません。

② 詳細につきまして補足させていただきます。

人件費につきましては、対前年+137億円となりました。社員給料、退職給付費用は記載の通りです。

「人件費その他」は、対前年+59億円となりました。内訳は、以下の通りです。

- (1) 厚生福利/法定福利費関連 +26億円
- (2) 賞与関連 +19億円
- (3) 日雇い +13億円

③ 下払い費用につきましては、対前年+163億円の増加となりました。

委託費は対前年+86億円増加しておりますが、その内、デリバリー事業に関わる増加額は+53億円となっております。

残りの32億円は、BIZ-ロジ事業やフィナンシャル事業等のノンデリバリー事業の増収に対応した増加分です。

備車費は、対前年+76億円の増加となりました。増加額のうち、70億円がデリバリー事業における増加分です。

「下払いその他」は、対前年+8千万円の増加と、ほぼ前年並みとなっております。内訳は、以下の通りです。

- (1) 混載運賃 △1億円
- (2) 仕入原価/売上原価等 +1億8千万円

④ 車両費は、前年に対して+9億円でした。内訳は、以下の通りです。

- (1) 燃料油脂費 +6億円
- (2) 車両修繕費 +3億円

⑤ 「その他費用」につきましては、対前年+68億円の増加でした。その内、減価償却費は+11億円の増加です。

減価償却費を除いた「その他費用」の主な増加内訳は、BIZ-ロジ事業における業務拡大に伴う施設使用料が対前年+10億円、宅急便取扱個数の増加に伴い、データ処理量が増加したためのコンピュータ費が対前年+約9億円です。

その他は、様々な経費項目が少しずつ増加しているといった格好です。

12.デリバリー営業費用の増減分析(対前年) ヤマトホールディングス

(単位:百万円)

| | 2014年3月期 第2四半期 | 2013年3月期 第2四半期 | 前年比較 | |
|--------|-------------------|-------------------|---------|-------|
| | 実績 | 実績 | 増減 | 伸率(%) |
| 営業収益 | 524,531 | 495,366 | 29,165 | 5.9 |
| 営業費用 | 513,081 | 487,794 | 25,287 | 5.2 |
| 人件費 | 293,386 | 281,545 | 11,840 | 4.2 |
| 社員給料 | 197,710 | 191,709 | 6,000 | 3.1 |
| 退職給付費用 | 5,987 | 5,356 | 630 | 11.8 |
| その他 | 89,688 | 84,479 | 5,209 | 6.2 |
| 下払経費 | 149,572 | 138,971 | 10,601 | 7.6 |
| 委託費 | 54,615 | 49,233 | 5,382 | 10.9 |
| 備車費 | 75,791 | 68,767 | 7,023 | 10.2 |
| その他 | 19,166 | 20,970 | ▲ 1,804 | ▲ 8.6 |
| 車両費 | 19,768 | 18,918 | 849 | 4.5 |
| 燃料油脂費 | 11,228 | 10,714 | 513 | 4.8 |
| その他経費 | 95,978 | 90,290 | 5,687 | 6.3 |
| 減価償却費 | 13,441 | 12,442 | 998 | 8.0 |
| 内部消去 | ▲ 45,624 | ▲ 41,932 | ▲ 3,692 | 8.8 |

(注記)上記数値は海外宅急便事業にかかわる営業費用も含まれております。

デリバリー事業の営業費用明細でございます。

スライド11の説明と重複いたしますので、詳細の説明は割愛させていただきます。

13. 2014年3月期業績予想(2)



(単位: 百万円)

| | 2014年3月期 今回予想 | 2013年3月期 実績 | 2014年3月期 1Q時予想 | 前年比較 | | 予想比較 | |
|--------------|------------------|----------------|-------------------|--------|-------|--------|-------|
| | | | | 増減 | 伸率(%) | 増減 | 伸率(%) |
| 営業収益 | | | | | | | |
| デリバリー事業 | 1,076,000 | 1,028,219 | 1,072,000 | 47,780 | 4.6 | 4,000 | 0.4 |
| BIZ-ロジ事業 | 90,000 | 86,806 | 94,000 | 3,193 | 3.7 | ▲4,000 | ▲4.3 |
| ホームコンビニエンス事業 | 47,500 | 44,601 | 48,500 | 2,898 | 6.5 | ▲1,000 | ▲2.1 |
| e-ビジネス事業 | 41,000 | 37,060 | 41,000 | 3,939 | 10.6 | 0 | 0.0 |
| フィナンシャル事業 | 61,000 | 56,710 | 60,000 | 4,289 | 7.6 | 1,000 | 1.7 |
| オートワークス事業 | 23,500 | 23,228 | 23,500 | 271 | 1.2 | 0 | 0.0 |
| その他 | 6,000 | 5,748 | 6,000 | 253 | 4.4 | 0 | 0.0 |
| 合計 | 1,345,000 | 1,282,373 | 1,345,000 | 62,626 | 4.9 | 0 | 0.0 |
| 営業利益 | | | | | | | |
| デリバリー事業 | 44,500 | 41,908 | 44,500 | 2,591 | 6.2 | 0 | 0.0 |
| BIZ-ロジ事業 | 4,100 | 4,094 | 4,100 | 5 | 0.1 | 0 | 0.0 |
| ホームコンビニエンス事業 | 300 | ▲527 | 300 | 827 | - | 0 | 0.0 |
| e-ビジネス事業 | 7,400 | 6,986 | 7,000 | 413 | 5.9 | 400 | 5.7 |
| フィナンシャル事業 | 9,100 | 8,516 | 9,100 | 583 | 6.9 | 0 | 0.0 |
| オートワークス事業 | 3,000 | 2,666 | 3,100 | 333 | 12.5 | ▲100 | ▲3.2 |
| その他 | 25,800 | 18,762 | 26,100 | 7,037 | 37.5 | ▲300 | ▲1.1 |
| 小計 | 94,200 | 82,407 | 94,200 | 11,792 | 14.3 | 0 | 0.0 |
| 消去 | ▲23,200 | ▲16,204 | ▲23,200 | ▲6,995 | - | - | - |
| 合計 | 71,000 | 66,202 | 71,000 | 4,797 | 7.2 | 0 | 0.0 |
| (利益率) | 5.3% | 5.2% | 5.3% | - | - | - | - |
| 経常利益 | 72,000 | 67,991 | 72,000 | 4,008 | 5.9 | 0 | 0.0 |
| (利益率) | 5.4% | 5.3% | 5.4% | - | - | - | - |
| 当期純利益 | 40,500 | 35,144 | 40,500 | 5,355 | 15.2 | 0 | 0.0 |
| (利益率) | 3.0% | 2.7% | 3.0% | - | - | - | - |

セグメント毎の営業収益・営業利益の通期予想でございます。

- ① セグメント毎の収入・利益につきましては、資料記載の通り、全てのセグメントで前年に対して、増収増益を計画しています。

スライド14ならびに、補足資料P10以降に予想に関わる数値を記載させていただいておりますので合わせてご覧いただければと思いますが、簡単に予想策定の前提についてご説明いたします。

- ② デリバリー事業ですが、対前年+477億円の増収に対し、+25億円の増益を計画しています。

主力商品である宅急便は、E-コマース市場の拡大が牽引し、リテール市場、法人市場ともに堅調な伸びを示しておりますが、このトレンドは今後も続くと見ております。

数量ベースで、対前年+9.6%の16億3,000万個、単価は対前年△3.2%の572円で見ております。

第1四半期時の予想比較では、取扱個数 +1,500万個、単価は変更していません。

クロネコメール便は、足元のトレンドを加味し、数量ベースで、対前年+0.3%の21億2,000万冊、単価は対前年△1.6%の60円と修正を加えました。第1四半期時の予想比較では、取扱冊数 △4,300万冊、単価は変更していません。

これら主力商品の見通しを踏まえ、第1四半期時の予想比較では、宅急便収入を+80億円、クロネコメール便収入を△20億円とさせていただきます、デリバリー事業合計では、40億円の上修正をいたしました。

利益につきましては、個数増加に伴う人件費、下払い費用といったコストの増加を織り込んだため、第1四半期予想から変更していません。

- ③ BIZ-ロジ事業

BIZ-ロジ事業全体で対前年+31億円の増収に対して、+5百万円の微増益を計画しています。

足元の収益トレンドを加味し、第1四半期時の通期予想比較では、営業収益を△40億円とさせていただきます。

利益につきましては、収入の下方修正に伴う、航空運賃の減額やその他コストコントロールを通じて、当初予想である41億円を確保してまいりたいと考えております。

- ④ ホームコンビニエンス事業

ホームコンビニエンス事業全体で対前年+28億円の増収に対して、+8億円の増益で計画しております。

上期までが計画通りの進捗であることから、第1四半期の予想比較では、収益、利益ともに変更していません。

- ⑤ e-ビジネス事業

e-ビジネス事業全体で対前年+39億円の増収に対して、+4億円の増益で計画しております。第1四半期の予想比較では、収益は変えておりませんが、上期までの進捗を鑑み、利益を4億円上乗せしております。

- ⑥ フィナンシャル事業以下、資料記載の通りでございます。

第1四半期の通期予想比較で若干の入りに繰りはございますが、特筆すべきものはございません。

14. 2014年3月期業績予想(3)



業績予想の前提

(単位:百万円)

| | 2014年3月期 今回予想 | 2013年3月期 実績 | 2014年3月期 1Q時予想 | 前年比較 | | 予想比較 | |
|--------|------------------|----------------|-------------------|---------|-------|--------|-------|
| | | | | 増減 | 伸率(%) | 増減 | 伸率(%) |
| 営業収益 | 1,345,000 | 1,282,373 | 1,345,000 | 62,626 | 4.9 | 0 | 0.0 |
| 営業費用 | 1,274,000 | 1,216,170 | 1,274,000 | 57,829 | 4.8 | 0 | 0.0 |
| 人件費 | 697,000 | 666,637 | 694,000 | 30,362 | 4.6 | 3,000 | 0.4 |
| 社員給料 | 480,000 | 458,451 | 478,000 | 21,548 | 4.7 | 2,000 | 0.4 |
| 退職給付費用 | 15,000 | 14,501 | 15,000 | 498 | 3.4 | 0 | 0.0 |
| その他 | 202,000 | 193,684 | 201,000 | 8,315 | 4.3 | 1,000 | 0.5 |
| 下払経費 | 508,000 | 483,326 | 507,000 | 24,673 | 5.1 | 1,000 | 0.2 |
| 委託費 | 203,000 | 189,555 | 202,000 | 13,444 | 7.1 | 1,000 | 0.5 |
| 備車費 | 161,000 | 148,213 | 158,000 | 12,786 | 8.6 | 3,000 | 1.9 |
| その他 | 144,000 | 145,556 | 147,000 | ▲1,556 | ▲1.1 | ▲3,000 | ▲2.0 |
| 車両費 | 45,500 | 43,741 | 45,500 | 1,758 | 4.0 | 0 | 0.0 |
| 燃料油脂費 | 28,000 | 25,779 | 28,000 | 2,220 | 8.6 | 0 | 0.0 |
| その他経費 | 271,000 | 255,436 | 273,500 | 15,563 | 6.1 | ▲2,500 | ▲0.9 |
| 減価償却費 | 43,500 | 37,935 | 44,500 | 5,564 | 14.7 | ▲1,000 | ▲2.2 |
| 内部消去 | ▲247,500 | ▲232,970 | ▲246,000 | ▲14,529 | - | ▲1,500 | - |

営業収益

デリバリー事業

・宅急便取扱数量(予想)
1,630,000(千個)(対前年+9.6%)

・宅急便単価(予想)
572円(対前年▲3.2%)

・メール便取扱冊数(予想)
2,120,000(千冊)(対前年+0.3%)

・メール便単価(予想)
60円(対前年▲1.6%)

人件費

社員給料

連結(予想)

合計 195,300人(対前年 +18,192人
前年比 +10.3%)

フル 87,900人(対前年 +3,478人
前年比 +4.1%)

パート 107,400人(対前年 +14,714人
前年比 +15.9%)

・その他

社会保険料率の改定等による増加

設備投資

設備投資総額(予想) 90,000百万円

連結営業費用の通期予想でございます。

① 各費用項目の通期予想につきましては、資料記載の通りです。

② 第1四半期予想から変更した、主要な費用項目、人件費と下払い費の2点をご説明いたします。

(1) 人件費

予想人員数につきましては、デリバリー事業の集配戦力を中心に、フルタイマー、パートタイマーともに第1四半期時点の予想から増員の計画で組んでおります。

人員数の増加に伴い、第1四半期時の予想に+30億円上乗せし、対前年+303億円を計画しております。

+30億円の増額のうち、20億円が社員給料、10億円が「人件費その他」となっており、「人件費その他」の主な増加要因は日雇い費用の増加です。

(2) 下払い費

第1四半期時点の予想比較では、+10億円上乗せし、対前年+246億円を計画しております。

10億円の内訳は、委託費で+10億円、備車費で+30億円、「下払いその他」で△30億円としております。

委託費、備車費の増額については、宅急便取扱数量の上方修正によるものですが、「下払いその他」につきましては、BIZ-ロジ事業における営業収益の下方修正に伴う、航空運賃等の減額等を織り込んでおります。

③ 最後に、設備投資の予想ですが、第1四半期予想から変更なく総額900億円を計画しております。

項目別には補足資料P16に記しておりますので、合わせてご覧いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。

このプレゼンテーション資料はPDF形式で当社ホームページ
「株主・投資家情報」に掲載しております。

この内容は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当社としては一切の責任を負いかねますのでご承知ください。

Disclaimer: This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.